

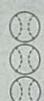
Bルーキー

未来担う精鋭10選手

-1-

生まれは、J1鳥栖が本拠地

恐怖心から誘いを拒めなかつた



「おまえに任せた」。普段の柔らかな表情はいつも、このひと言で引き締まったという。神奈川大学リーグで1年から投げ続けてきた屈指の左腕、浜口遥大（神奈川大）は周囲に信頼されればされるほど力を培い、発揮してきた。

リーグ戦を制した2年春に全日本大学選手権で準優勝を遂げ、一躍名を上げると、翌春にはつかずの6勝、防御率0・85の好成績で再びリーグ優勝に貢献。大学最後の昨年秋も自身3度目のリーグ制覇をつかみ取った。

とりわけ優勝を懸けた昨年10月11日、神奈川工大との3回戦が忘れられない。中1日で登板した輪の中で歓喜に酔いしきった。不調であろう、劣勢であるうと関係ない。サウスボーンの大一番でも、ベンチ、チームメートの信頼に応えた一心で腕を振っていた。

とする佐賀県鳥栖市が隣接する基山町、サッカー選手に憧れる友人に囲まれて育つた少年は、「野球部は」人数が少ないと、やつていてるだけ注目され、うれしかった」と言う。中学時代は「平凡」。志願した投手は中学3年春に「グ二になつた。ポジションは右翼で打順は良くて6番。進学先の高校でも野球を続けるか逡巡している時に「怖かった」という先輩から声が掛かつた。「部員が少ないから入れ」。

（清水嘉寛）

腕振り信頼勝ち取る

クライマックスシリーズ（CS）に初進出した昨季からさらなる飛躍を期す横浜DeNAに、10人のルーキーが加わった。山

崎康、石田、今永ら進境著しい若手に続く新星は現れるか。チームの未来を担う精鋭たちの横顔を紹介する。

新人合同自主トレーニングでアピールを続ける浜口
=横須賀市長浦町のペイスターズ総合グラウンド（花輪久写す）



浜口 遥大
Haruhiro Hamaguchi

ドラフト1位／投 手

ピッチングは粗削り。神奈川大学リーグの1試合平均の四死球は5個以上だ。ただ、「小さくまとまりたくない」との信念の下、神大の古川祐一監督（48）と歩んだ過程は間違っていないと確信する。直球は最速151キロ。ストレートと並ぶ武器のチェンジアップは実戦を通じて磨いてきた。「プロで戦うにはまだ足りないぞ」。入学間もないころから指揮官の言葉に背中を押され、1年春からリーグ戦のマウンドに立つこと51試合。計359回 $\frac{1}{3}$ を投げた。昨年の春秋だけで19試合に登板し、134回 $\frac{1}{3}$ とプロにも匹敵するイニング数だった。1試合130球程度を投げることとはざらで、完投した翌日にロングリリーフを任される時もあった。173センチながら80

という当時を振り返り、「先輩の声がなければ野球をやめていた」と笑うが、ここから自分の力で道を切り拓いていく。同県立三養基高校で投手を任せられ、腕一本で強豪校に立ち向かう。「やっぱり野球は楽しい」。再認識した左腕は冬場の走り込みで下半身を鍛え、球速は入学時から25キロもアップした。3年夏の佐賀大会は2完封を含む全3試合で完投。九州の各校から誘いを受けたが「より高いレベル」を求めて神奈川に針路を向いた。

はまぐち・はるひろ 投手。佐賀県基山町出身。佐賀・三養基高・神奈川大。高校時代に甲子園出場経験はないが、大学1年秋からエースを務め、春秋合わせて3度のリーグ優勝に貢献。リーグ通算20勝16敗。2年春には全日本大学選手権でチームを過去最高の準優勝に導いた。173センチ80キロ。左投げ左打ち。背番号26。21歳。